

大洲市柿木の重要文化財「如法寺仏殿」の大規模修理を支援しようと、市民や北九州市の音楽家が5月25日午後7時から、大洲市大洲の市民会館で収益を全額寄付するチャリティーコンサートを開く。

旧大洲藩主が1669年に創建した如法寺では、老朽化に伴う仏殿保存修理事業(2010~14年度、総事業費約4億4500万円)が進み、防災設備(約1億1千万円)と上水道導入(約725万円)の両事業も控える。行政の補助はあるが、寺院の規模が大きい割に檀家(だんか)が約50戸と限られており、資金確保に苦慮。修復募金委員会が5千万円を目標に寄付を募っている。

如法寺仏殿(右奥)の修復支援コンサートを企画し、村上住職(中央)を訪ねた三瀬さん(左)と樽井さん



大洲・如法寺仏殿 大修理資金 音楽で支援

来月25日チャリティー公演 ピアノや二胡演奏 童話も

大洲市出身の北九州市を拠点に詩・童話による音楽コンサートをしている友人の三瀬洋子さん(65)に依頼して実現。北九州市の音楽事務所「ラポール・ムジカ」のピアノと二胡(こ)の音楽家2人、大洲市のピアノ演奏者1人の無償出演が決まった。コンサート第一部は詩人谷川俊太郎の「生きる」など3編と三瀬さんの創作童話「石のひみつ」。第二部はピアノと二胡による「花は咲く」など8曲の構成。同音楽事務所が主催し、入場料千円。高校卒業まで大洲市で育った三瀬さんは「大洲がいに美しい所か話したら(音楽家2人は)無償で出演すると言ってくれた。いま美しさを再認識している」と話す。樽井さんも「如法寺は大洲の宝。満席にして少しでも役立てたい」と参加を呼び掛けている。

如法寺の村上玄樹住職(59)は「コンサートに参加する方々の善意で修復が縁成(えんじょう)できるようお願い」と成功を期待する。チケットは同市中村の料理店「この町たる井」電話0893(24)3000で販売中。(秦俊太郎)

大正時代の楽譜を基に当時の演奏を再現するバイオリン奏者



大正の調べレトロに

東温・華宵館 当時の楽譜で再現

宇和島市出身の画家高島華宵(1888~1966年)が活躍した大正時代の音楽をよみがえらせるコンサート「大正楽譜で奏でるバイオリン二重奏」が14日、東温市下林の高島華宵大正ロマン館であり、約50人がレトロな演奏に酔いしれた。当時の楽譜には、人気画家竹久夢二が表紙絵を描いたモダンなデザインが入っていた。保安寺の総代で法要を取り仕切った山本佳孝さん(72)は「住民がいつもお世話してくれている。これからも大切にしていきたい」と話していた。三尊仏は5~12月の第2日曜日などにも開帳されている。(加藤大啓)

サインのものが多数をピアノを指の楽譜を精の演奏を再の演奏を再を指ではい用したり、れなくなったりと、と味違っ痛魅了した。母親がバ弾いていた市六軒家町子(91)音で、共思い出した。同館は「オ楽譜とックス」はで。

梅之堂三尊仏 今年も穏やか 八幡浜重文二開帳 平安時代末期の作とされる重要文化財「阿弥陀(あみだ)如来三尊仏」が16日、八幡浜市松柏の梅之堂で開帳された。地元住民や市関係者約30人が法要を営み、穏やかな表情をたたえた3体に手を合わせた。

三尊仏は地元で「梅之堂三尊仏」として親しまれており、法要のある毎年4月に開帳。いずれもヒノキ造りで、本尊の阿弥陀如来像と、観世音(かんぜ



法要に合わせて開帳された八幡浜市の「梅之堂三尊仏」

22キロの島巡り 今治・大三島 高校生歩行大会

今治市大三島町宮浦の今治北高校大三島分校の歩行者、全校生徒



ワイドえひめ

WIDE CHANNEL

皆、女教員